

みずほディーラーズアイ (2025年1月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場/ユーロ相場	2	韓国ウォン相場	8
英ポンド相場	5	台湾ドル相場	9
豪ドル相場	6	香港ドル相場	10
カナダドル相場	7	中国人民元相場	11
		シンガポールドル相場	12
		タイバーツ相場	13
		マレーシアリング相場	14
		インドネシアルピア相場	15
		フィリピンペソ相場	16
		インドルピー相場	17

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

ドル円相場

予想レンジ: USD/JPY 155.00 ~ 163.00

金融市場部 為替営業第一チーム 山田隆広

■ 今月の見通し

今月のドル/円相場は、高値圏での荒い値動きを予想。本邦当局による為替介入への警戒感が煽るも、月後半にかけてトランプ氏の米大統領就任や日米中銀会合など注目度の高いイベントを控える。ドル買い円売りの地合いは継続もボラティルな展開は避けられないと考える。

米国サイドでは10日に米12月雇用統計、15日に米12月CPIなどの経済指標の発表が予定されている。もっとも、20日の第2次トランプ政権発足を控え様子見姿勢が強いと思われる状況下、予想を大きく下回る結果とならない限り28～29日のFOMCにおける利下げ見送り観測には影響を及ぼさないだろう。トランプ氏による保護主義的な各種政策に関する突発的な発言に警戒しつつ、就任日以降に具体的に言及のあった中国などへの追加関税が賦課されるかどうかは注視したい。いずれにせよ当面はコストプッシュ型のインフレ再燃懸念を孕みながら、株高・金利高・ドル高のトリプル高となろう。

かたや本邦サイドに目を向けると、23～24日の日銀金融政策決定会合が焦点となる。前回会合では、米経済を巡る不確実性と本邦春闘動向の見極めを理由に、金融緩和の度合いを調整することができる状況としつつも利上げを見送っており、今回も同様の理由で追加利上げを見送るとみる。春闘のモメンタムは2025年版経営労働政策特別委員会報告で確認できそうだが、米国経済を巡る不確実性が一巡することを注視するのであれば、トランプ氏の米大統領就任から日が浅い1月会合時点では判断できないのではないかと。その場合は足許で1月利上げ期待剥落によるもう一段の円売りが進行する余地があるほか、会合直前の投機的な円ショートに警戒が必要となりそう。併せて、米国の政権移行期間中に実弾介入に踏み切れる蓋然性は高くないと思われるものの、相場急変時における本邦当局からのけん制発言などによるドル円急落の可能性も考慮に入れておきたい。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0000 ~ 1.0500
EUR/JPY 156.00 ~ 165.00

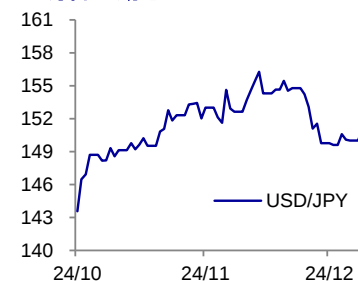
金融市場部 グローバルFIチーム 島 欣生

■ 今月の見通し

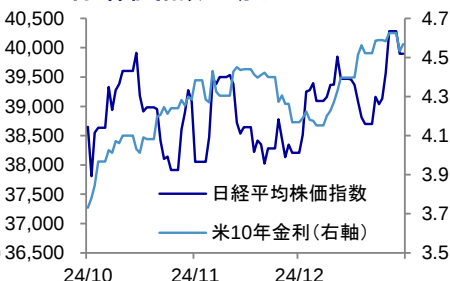
ECBとFRBの金融政策スタンスの格差に加え、ドイツ・フランスの政治面での不透明感、米国のトランプ次期政権が導入する可能性のある関税措置への懸念等から、EURは軟調な地合いを想定している。

12月のECB政策理事会では25bpの利下げを実施。景気下振れリスク等を背景に今月と3月の会合でも追加利下げが確実視されており、一部ではいずれかの会合で50bpの利下げに動くとの見方もある。一方米国は12月のFOMCで25bpの利下げを実施したが、ドットチャートで示された2025年の利下げ回数は前回(9月)の4回から2回へ半減、パウエルFRB議長も追加利下げに慎重姿勢を強める可能性に言及し、金利調整プロセスが新たな段階に入ったと指摘するなど、全体的にタカ派的な材料が目立った。ECBとFRBの金融政策格差が明確な中で、EUR安のトレンドは変わりにくいと思われる。政治面に目を向けると連立政権が崩壊したドイツでは2月に総選挙を控え、フランスでは昨年首相が3回替わるなど政局の混迷が続いている。斯かる状況下、国債増発への警戒感から初めて独10年スワップスプレッドがマイナス(国債の利回りが同年限のスワップ金利を上回る状況)となっているほか、仏独の国債利回りスプレッドの拡大傾向が続くなど、政治不安の影響がマーケットにも顕在化しつつある。EUの中核をなすドイツとフランスの政治が不安定な状況に陥っていることはEURの上値を抑える材料として熾り続けると見られる。またトランプ次期米大統領はEUが米国産の石油やガスをより多く購入しなければ関税を課す方針であることを12/20にSNS上で表明。関税引き上げが現実味を帯びてくれば、欧州経済の下振れ懸念に繋がりユーロ売りが連想されよう。水準面で見ると、ユーロ/ドルは2023年以降続いてきた1.04台～1.12台のレンジを明確に下抜けており、パリティに向けてジリジリと下げる展開を予想。

■ 為替の動き



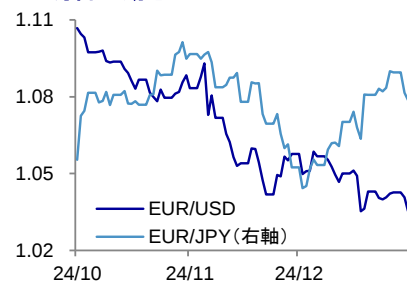
■ 金利・株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	前回
1/10	非農業部門雇用者数変化	12月	163k	227k
1/10	失業率	12月	4.2%	4.2%
1/15	CPI(前月比)	12月	0.3%	0.3%
1/16	小売売上高(除自動車/前月比)	12月	0.5%	0.2%
1/23～24	日銀金融政策決定会合	-	-	-
1/28～29	FOMC	-	-	-

■ 為替の動き



■ 金利・株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	前回
1/7	ユーロ圏HICP速報値(前年比)	12月	2.4%	2.2%
1/21	独ZEW景気期待指数	1月	-	15.7
1/24	ユーロ圏製造業PMI	1月	-	45.1
1/27	独IFO企業景況感指数	1月	-	84.7
1/30	ECB主要政策金利	-	-	3.15%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	12名	161.00 ～ 154.25	ベア	3名	160.00 ～ 152.50
----	-----	-----------------------	----	----	-----------------------

※ レンジは中心値

宮地	ベア	159.50 ～ 152.50	トランプ米大統領就任に向けドル高に進みやすい展開は否めない。しかしながら、円安が進行すれば日銀利上げの思惑や当局による介入警戒感が高まるものと思われ、結果的にドル円の上値は限定的か。
河合	ブル	161.00 ～ 155.00	米利下げペースの鈍化期待や年初NISA関連の外国資産購入フローにより、ドル円は堅調な展開を予想。ただし、ドル円の水準次第では、年末に本邦高官からの発言が繰り返された通り、介入警戒感の高まりから、急落の可能性も。
川端	ブル	162.50 ～ 154.50	12月の日銀会合で植田総裁が追加材料の必要性に言及したことから市場参加者の追加利上げへの期待が後退。トランプ米大統領の政策影響にもスコープが向いており、150円割れまでの調整を経て上昇再開しており円安継続がメイン。
加藤	ベア	160.00 ～ 150.00	決定的に方向を決めるのは米国の姿勢でありモメンタムは明らかにドル高である。しかし円安による本邦経済に対する悪影響は無視できず当局としても放置できない。上値トライしても結局頭打ちになってしまうと考える。
山崎	ブル	161.00 ～ 154.00	日米の金融政策決定会合で円安となった12月であったが、1月も同じ傾向が続くものと想定。BOJは再びライブとなるとのことであるが、利上げは3月まで待つものと想定。結果として160円付近までの上昇を見込む。
山口	ブル	161.00 ～ 155.00	今月もテーマは引き続き日米の金融政策に集まる。米国は金融政策を当面維持する一方で、日銀については第1Qでの利上げ期待感が強い。日銀による早期利上げ期待が剥落した際の円売りには警戒したい。
田川	ブル	161.00 ～ 153.50	先月は日銀から市場予想を超えるハト派発言が聞かれた。他方米経済は粘り強くトランプ次期大統領からドル高も想起されやすい。ペースはドル/円は上目線だが、本邦介入期待を鑑みれば一段の上値余地は限られる。高値圏での推移を想定。
松永	ブル	161.00 ～ 154.00	日銀の1月利上げの可能性は残るものの、直近の植田日銀総裁の発言等を踏まえれば、円買いには動きにくい。トランプ氏就任前後の動向に上下動はあるものの、ドル高地合いは変わらないとみる。
上遠野	ブル	162.00 ～ 154.00	本邦内需や米国新政権の不透明感から日米ともに金融政策の追加的なアクションを見送る動き、また新NISAをはじめとした旺盛な対外投資フローも継続し、ドル円は上値介入ラインを試す展開を想定。
大熊	ブル	161.00 ～ 154.00	日銀の追加利上げ見通しの不透明さと、FRBの利下げペース鈍化観測を鑑みると、ドル高円安地合いは継続すると思われる。未だ底堅い米経済を背景に米金利も高水準にあり、ドル一強の状況は不変と見る。
伊藤(基)	ブル	161.00 ～ 154.00	年末にかけてのドル高はやや行き過ぎている感が漂っているものの、日本サイドに目を向ければ、日銀がタカ派に転じる可能性は、低いだけに、ドル円については、ジリジリと上値を試すような展開を想定。
范	ブル	161.00 ～ 154.50	欧州や中国について景気後退懸念から追加の金融緩和が意識される局面においてドルは相対的に底固く推移するものと予想。日銀は現時点では先行き不透明な状況もあり、タカ派傾斜は難しいか。
鈴木	ブル	161.00 ～ 155.00	トランプ大統領就任に向けた不透明感は燦るものの、米国の堅調な経済状況や利下げ織り込みの後退を受けたドル買いが継続。日銀の早急な方針転換も現状想定されず、ドル円は高値を試す展開を予想する。
西	ブル	162.00 ～ 156.00	トランプ米大統領の米大統領就任を前に同氏の動向に注目。日銀会合での利上げはハードルが高いとみており、日米金利差の縮小が見通しづらい中、ドル円は引き続き底堅い推移を想定。
松木	ベア	160.00 ～ 154.00	現状1月日銀会合の利上げ織り込みは50%と割れており、日銀からのコミュニケーションに左右される展開となろう。160円と円安が進むにつれて日銀の利上げ期待が高まる場合の円高余地は相応にあるか。

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ 見通しまとめ

ブル	1名	1.0500 ～ 1.0150	ベア	14名	1.0500 ～ 1.0000
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

宮地	ベア	1.0400 ～ 0.9950	米欧金利差拡大の思惑やFRBとECBの金融政策スタンスの違いはユーロの上値を抑えよう。また、独仏政局や欧州景況感の低迷を踏まえると今月のユーロは下値を探る展開を予想。
河合	ブル	1.0500 ～ 1.0150	欧米のファンダメンタルズ格差と利下げ回数期待差は、ドル高ユーロ安継続を示唆するが、ユーロ/ドルが相当の安値圏にあること、エネルギー価格の大幅な低下による実需面を支えに、ユーロ/ドルは反転上昇する展開を予想する。
川端	ベア	1.0500 ～ 0.9900	域内景況感の弱さに加えて月末のトランプ就任に向けては政策上、ユーロネガティブが意識され易く11月に2年ぶりに割り込んだ1.05はすでに遠い。またFOMCの年内利下げ期待も剥落しており、パリティ・トライも想定される。
加藤	ベア	1.0500 ～ 1.0000	調整的なユーロの買戻しは十分に考えられるものの市場参加者は米欧格差を考えると一旦パリティをトライせずにはいられないであろう。ただ米国の状況次第では先行き続落が続くか微妙である。
山崎	ベア	1.0550 ～ 1.0200	欧州の政治リスクも意識されていることから、2月まではユーロ軟調の展開が継続されるものと想定される。1月でパリティまでに到達はしないものと想定。政治的なヘッドラインには注意したい。
山口	ベア	1.0500 ～ 1.0100	欧米の金融政策の違いを受けたドル買いの流れに加え、年始からは欧米景気格差も強く意識されており、引き続きユーロは売られやすいと予想。さらに、世界的にリスク回避の流れが強まった場合は急激なユーロ安にも警戒したい。
田川	ベア	1.0450 ～ 1.0000	ECBとFRBの政策スタンス差や、欧州域内政局不安、経済指標を鑑みるにEURを買う余地は乏しく、ユーロ/ドルは下落トレンドの継続を想定。大台である1.0000(パリティ)を狙いに行く展開か。
松永	ベア	1.0600 ～ 1.0250	地政学リスク、政治リスク、景気後退リスク等、欧州に弱気材料が並ぶ中、上値の重い展開を予想。トランプ氏の関税政策次第では一段安の可能性も想定しておきたい。
上遠野	ベア	1.0550 ～ 1.0100	欧米景気の格差拡大と欧州での右派台頭による政治的分断の加速など、ユーロは引き続き弱材料多め。ECBの追加利下げ継続も織り込みながら対ドルで軟調な推移を想定。
大熊	ベア	1.0500 ～ 1.0100	独と仏の不安定な政局が続く状況下、トランプ次期米政権の高関税政策の影響もあり、特に独経済の先行き不透明感は強い。今年度中に4回の0.25%利下げが予想されていることから、ユーロは軟調推移を予想。
伊藤(基)	ベア	1.0500 ～ 1.0000	ユーロ圏の経済・政治に関する不安材料については相場に相応に織り込まれているとみられるものの、材料出尽くしにはまだ遠そう。また何よりもユーロを積極的に買う理由は引き続きないだけに軟調推移が続くだろう。
范	ベア	1.0400 ～ 1.0000	景気後退懸念からECBについて金融緩和バイアスが継続しやすい。また、政治不安も燦る中、ユーロを積極的に買っていく材料は乏しいか。
鈴木	ベア	1.0500 ～ 1.0000	地政学リスク、政治的リスクなどユーロ売りを想起させる材料には事欠かない。域内と米国との経済格差、金融政策の差異も背景に、引き続きユーロは軟調な推移になると予想する。
西	ベア	1.0500 ～ 1.0100	1月ECB会合での利下げは規定路線。トランプ氏の米大統領就任を前に追加関税による欧州経済への不透明感は高まりやすく、ユーロの重しとなろう。政局不安もある中、米欧経済の格差は明確であり、軟調推移を想定。
松木	ベア	1.0500 ～ 1.0000	ユーロ圏の脆弱な経済状況を背景にECBによる利下げ路線継続が想定されることや仏独の政治情勢を踏まえると米国経済の強さやトランプ政権への期待感からドルが買われる状況は不変と予想する。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2300 ~ 1.2800
GBP/JPY 189.00 ~ 201.00

欧州資金室 神田 史彦

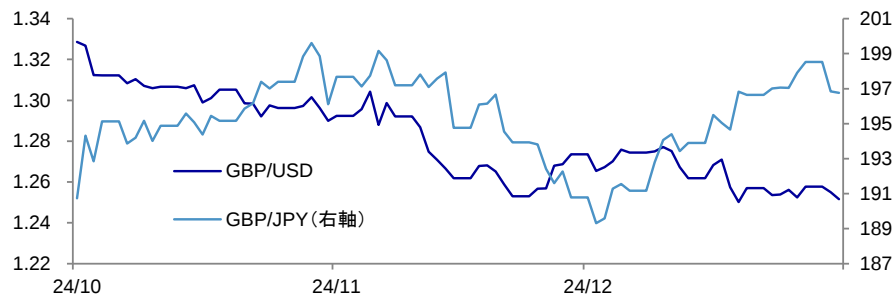
■ 先月の為替相場

先月のポンドは上値重い展開。月初2日に1.27台前半で取引を開始すると、仏政治不安によるユーロ安にポンドも連れ安し、米11月ISM製造業景気指数公表後にドルが強含む動きに1.26台前半まで下落する立ち上がり。週末6日にかけて、米11月雇用統計で失業率が予想を上回ると利下げ期待の再燃でドルが売られ、ポンドは1.28台を回復する場面も。13日に英10月GDPが予想外のマイナス成長となると1.26台前半へ売られる。17日に英10月の賃金データが予想を上回ると、来年の英利下げ見込みが急に巻き戻され、1.27台を回復。18日はFOMCの“タカ派”利下げを受けたドル買いに1.25台半ばへ下落。19日は英中銀が予想通り政策金利を据え置いたが、委員会見通しがハト派的だったことで1.24台後半まで値を下げた。その後は1.25～26レベルでもみ合い年末を迎えた。対円では上昇。月初2日に190円台後半で始まると、概ね対ドルと同様の値動きに。3日には9月以来となる188円台前半まで下落するも切り返すと、6日の米11月雇用統計後には192円台まで反発。日銀の12月利上げ見送り観測が高まり円安ムードで16日には195円台後半まで上昇。18～19日にかけてはFOMC後のドル買いと、日銀の金利据え置き後の円売りが相まって198円台へ急進。その後は196円～198円台でもみ合いとなり越年となった。

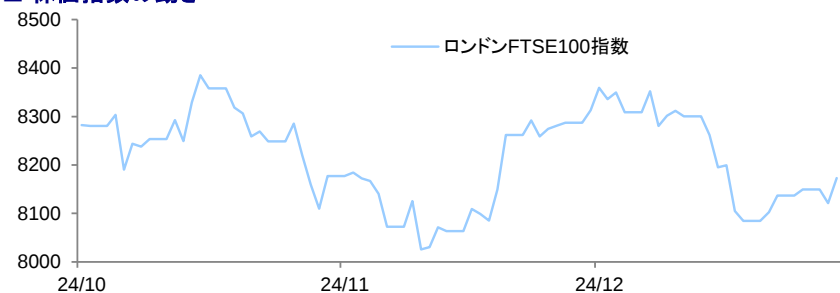
■ 今月の見通し

今月のポンドは上値重い展開を予想。今月は英中銀の金融政策委員会は予定されていないが、2月利下げに向けた観測でポンドは上下するだろう。先月の英10月賃金データ後に、スワップ市場は、英中銀の2025年内の4回利下げ見込みをタカ派方向にシフトしてきた。とはいえ、労働党の秋季予算案の発表後PMIなどは落ち込みだしており、10月の賃金データはすでに新鮮味がない。実際、先月19日に英中銀は11月時点に比べて10～12月期の成長見込みを引き下げており、今後出てくるデータに注目の軸足が移っている。ただ、英中銀ベイリー総裁は「最近の指標にはノイズが大きい」と当初の段階的な利下げを支持するコメントを出しており、大勢を変えるほどの変動は英側からは期待しない。一方で日米の中銀政策決定は今月予定されており、FOMCについては、直近のタカ派シフトやトランプ政権が始まるばかりであり動きなく終わりそうだが、波乱要因は日銀か。先月の利上げ先送りで、市場の見方は1月利上げと3月利上げに割れている。先月からの円安は12月の日銀決定が起因となっており、当局の介入是非についてはやや疑問符。円安が止まらない状況では日銀の利上げを後押しする可能性があり、対円では上下に相応な値幅が予想される。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/13	GDP(前月比)	10月	0.1%	-0.1%	-0.1%
12/16	製造業PMI	12月	48.5	47.3	48
12/17	週次平均賃金(除く賞与)	10月	5.0%	5.2%	4.9%
12/18	消費者物価指数(前年比)	11月	2.6%	2.6%	2.3%
12/19	英中銀政策金利		4.75%	4.75%	4.75%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/15	消費者物価指数(前年比)	12月	-
1/16	GDP(前月比)	11月	-
1/21	週次平均賃金(除く賞与)	11月	-
1/24	製造業PMI	1月	-

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6000 ~ 0.6300
AUD/JPY 92.50 ~ 98.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 樋上 陽一

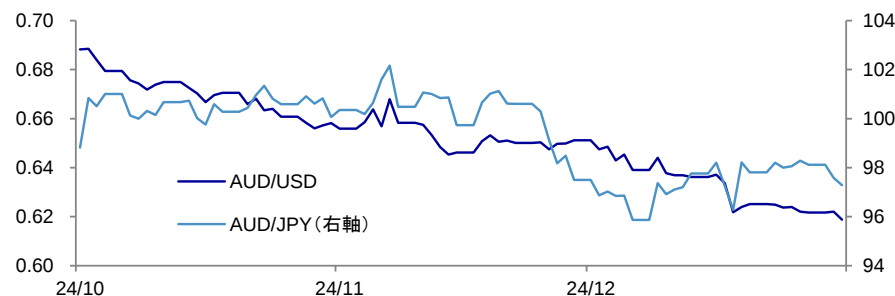
■ 先月の為替相場

12月の豪ドル相場(対ドル)は急落。2022年10月以来の豪ドル安水準となる0.62ドル割れで越年。月初0.6520ドルレベルで取引開始。米大統領選挙後の米ドル高モメンタムから豪ドルは上値が重い展開。4日に豪第3四半期GDPが前月比、前年比ともに市場予想を下回ると豪ドル相場は0.64割れをトライ。0.6399(ブルームバーグ社より)ドルで一旦底を確認したものの、6日の米11月雇用統計で為替市場全体がドル高で反応すると豪ドルは0.64ドルをしっかりと割り込んだ。さらに10日のオーストラリア準備銀行(RBA)理事会では市場予想通り政策金利は据え置きとなったものの、ハト派な声明文に豪ドルは売り圧力が強まり、FOMC前には0.63ドル前半レベルまで下落。無論、9日には中国の中央政治局が来年の金融政策を緩和的にする、と発表したこと、李首相が需要拡大の為にあらゆる手段を講じていく、と表明したことなどから中国経済と強い相関関係にある豪ドルは一時的に買い戻しが優勢となり、12日の豪11月雇用統計が市場予想比強かったこともサポート材料となったが、モメンタムを変えるには至らず。FOMCを受けて急落した豪ドルはその後、0.62ドル割をトライ。年末の取引閑散のマーケットの中で0.6179で出合い、同水準で2024年の取引を終えた。

■ 今月の見通し

左述の通り、先月のRBAはハト派転。声明文に『インフレが目標に向かっていくことをある程度確信』と記載され、前回の声明文にあった『何も決定しておらず、何も排除しない』、『政策は十分に制限的である必要がある』といったタカ派文言は削除された。足元の豪ドルインブライド金利は5月までに利下げを2回(1回25bp)織り込み済。12月月初時点の2回の利下げ時期が9月末だったことを考えると、ある程度、利下げ前倒しの織り込みが進んだともいえる。斯かる状況下、いったん豪ドルが買戻される可能性は残すものの、米金利が上昇基調であること、トランプ大統領の正式就任までは、豪ドル買いの材料に乏しいことから、引き続き足元のモメンタムによる豪ドルの軟調地合いが続くと考え、年初はまず豪ドルの下値トライをメインシナリオとしたい。本稿執筆時(1月3日シドニー時間17時現在)、年末に割り込んだ0.62ドル台は回復しているものの、遠いと思っていた22年の豪ドル相場の安値である0.61ドル台後半は、もはやサポートレベルにもなりそうにない。今晚にも取引されそうな水準でそこを抜けるとコロナ禍時に割り込んだ0.6ドル割れも視野に入るので非常にボラタイルな相場には注意が必要か。

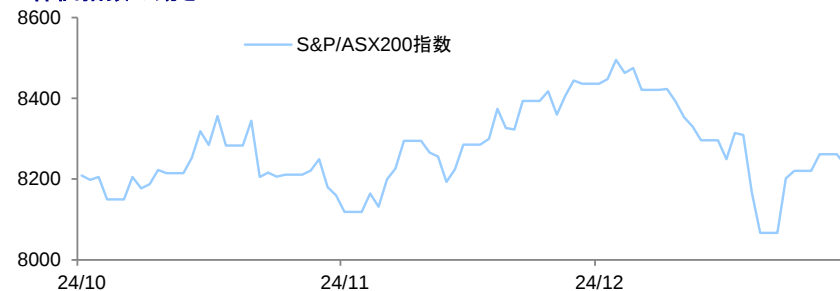
■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/4	GDP(前年比)	3Q	1.10%	0.80%	1.00%
12/10	RBA		4.35%	4.35%	4.35%
12/12	雇用統計(失業率)	11月	4.20%	3.90%	4.10%

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/8	消費者物価	11月	2.20%
1/9	貿易収支	11月	55億豪ドル
1/16	雇用統計	12月	-

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.4200 ~ 1.4600
CAD/JPY 105.00 ~ 111.50

米州マーケット部カナダ室 岩田 保子

■ 先月の為替相場

USD/CADは11月半ばに2020年3月以来となる1.40を上抜けしたが、12月は従来のカナダ経済の低調に加え、政局でも混乱があったため、CADが反発する機会にはほぼなく、おおむね1.40以上の取引が続いた。

初旬12/6、米・加両国の11月雇用統計が発表され、カナダの新規雇用は増加したものの、失業率がさらに6.8%へ悪化したことで、USD/CADは1.41台へと急伸。

12/11のカナダ中銀会合では、市場の予想通り11月会合に続いて0.50%の大幅利下げが決定され、政策金利はカナダ中銀が中立金利とみなす水準(2.25～3.25%)の上限まで引き下げられた。

中旬には、トランプ次期米大統領が表明しているカナダ製品に対する25%の関税が実施された場合、カナダ政府は最終的な報復措置として、米国向けのウランや石油等の主要コモディティに課税することを検討との報道があったほか、閣僚辞任が続いていたところにトルドー政権のナンバー2であるフリーランド副首相兼財務相が財政支出を巡ってトルドー首相と対立し辞任。政局が混迷するなか、USD/CADは1.42を上抜けた。12/18のFOMCでは、FRBが予測する2025年の利下げ回数が市場予想を下回ったことで、USDが全面高となり、USD/CADも1.4467の最高値をつけた。

下旬においては、ホリデーシーズンの影響で流動性が低下するなか、カナダの主要経済指標の発表もなく、1.43台前半から1.44台半ばでのレンジ取引が続いた。

■ 今月の見通し

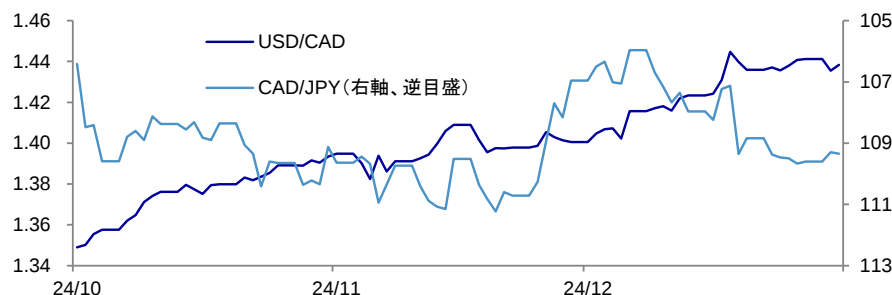
10月以降顕著に進行してきたCAD安の背景には、これまでの米・加両国の金融政策の違いによる金利差に加え、トランプ関税をめぐる協議の不透明感、さらには12月に入って一挙に混迷度を深めてきたカナダの政局の影響があるものと考えられる。

金融政策については、FRBは来年の利下げは2回程度と予測しており、市場もほぼ同じ見方をしている。12月会合でカナダ中銀マックレム総裁も、「今後は金融政策のアプローチはより緩やかになると予想する」との認識を示した。しかし、上昇を続ける失業率や本格的回復にはまだ遠いカナダ経済、加えてトランプ関税の行方の不透明さ等から、市場は来年も利下げは継続され、最低でも2回、多ければ4回実施されとの予想が強い。なお12月末時点で、1月29日のカナダ中銀会合における市場の利下げ確率は70%超となっている。

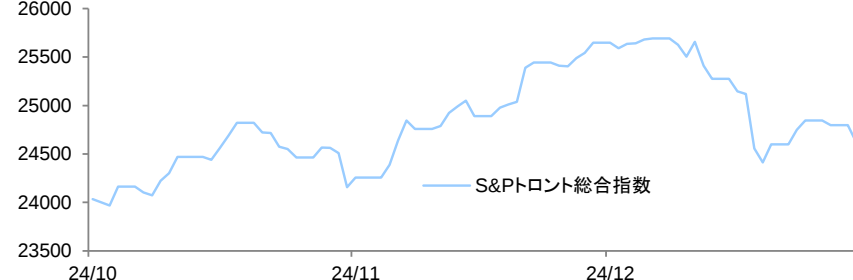
カナダの政局については、トルドー首相に対する退陣圧力が高まっているほか、25年秋までに予定されている総選挙の大幅前倒しの可能性がある。世論調査によると、総選挙の場合、物価高や住宅問題への対応ですでに支持率が低迷している少数与党・自由党は、最大野党の保守党に大敗すると見られている。年明けから関税をめぐる協議が米・加間で本格化するだけに、政局の不安定さはカナダにとって大きなマイナスになると懸念される。

カナダ経済の弱さに加え、トランプ大統領就任やカナダ政局等の政治的な不透明さも重なり、1月のUSD/CADは上値は1.46、下値は1.42と予想する。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/6	ネット雇用変化	11月	25K	51K	15K
12/6	失業率	11月	6.60%	6.80%	6.50%
12/11	カナダ中銀政策金利決定会合		3.25%	3.25%	3.75%
12/17	CPI (前年比)	11月	2.0%	1.9%	2.0%
12/20	小売売上高 (前月比)	10月	0.7%	0.6%	0.6%
12/23	GDP (前月比)	10月	0.2%	0.3%	0.2%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/10	ネット雇用変化	12月	-
1/10	失業率	12月	-
1/21	CPI (前年比)	12月	2.00%
1/23	小売売上高 (前月比)	11月	-
1/29	カナダ中銀政策金利決定会合		-
1/31	GDP (前月比)	11月	3.00%

韓国ウォン相場

予想レンジ: USD/KRW 1350 ~ 1400
KRW/JPY 10.40 ~ 11.00 (注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

東アジア資金部ソウル資金室 山内 脩平

■ 先月の為替相場

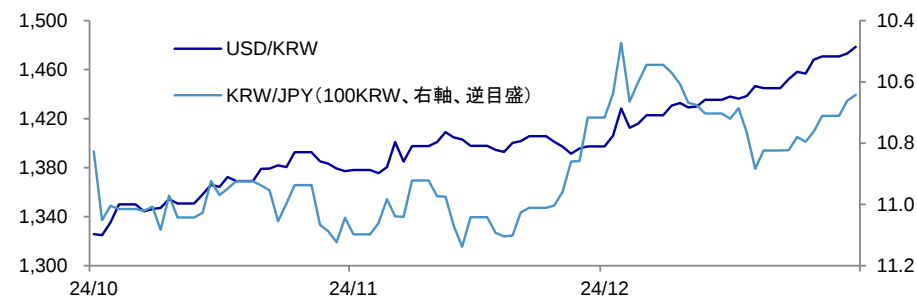
12月のドル/ウォンは急騰。月初ドル/ウォンは1396.0ウォンでオープン。11月末にBOKが予想外に連続利下げを決定したことや、3日に発表された11月CPIが前年比+1.5%と予想を下回ったことから緩やかにウォン安が進行した。ところが、突如3日夜間に尹大統領から戒厳令が宣布されると、リスク回避の動きから1442.0ウォンまで急騰。戒厳令自体は約6時間程で解除されたことから翌4日は1418ウォン付近まで戻してオープンするも、その後尹大統領の弾劾に向けた与野党の動きについてヘッドラインが交錯し、政情不安を懸念したウォン安が継続。1度目の弾劾訴追案は不成立となるも、長引く政情不安が嫌気され、翌週は1430ウォン台まで上昇。14日には弾劾訴追案が可決されたことで、韓首相が大統領代行となった。一時は不確実性の解消から1420ウォン台に下押しする場面が見られたものの、18日のFOMC会合を受けて米利下げペースが鈍化するとの方見から、韓米金利差拡大が意識され19日に1450ウォン台までウォン安が進行。下旬にかけてもウォン安進行は止まらず、尹大統領の弾劾裁判を巡り憲法裁判所の欠員補充について韓首相が権限の根拠に乏しく、直ちに任命を認めない方針を表明すると、野党がこれに反発し、韓首相の弾劾訴追案を提出。出口の見えない政治情勢を受けてウォン安が一段進行し一時1,486.7ウォンの高値をつけた。その後韓首相の弾劾法案は可決され、崔副首相兼企画財政部長官が大統領代行に就いた。政治の混迷が続く中、ドル/ウォンは1,472.5ウォンでクローズ。(30日15:30時点)

■ 今月の見通し

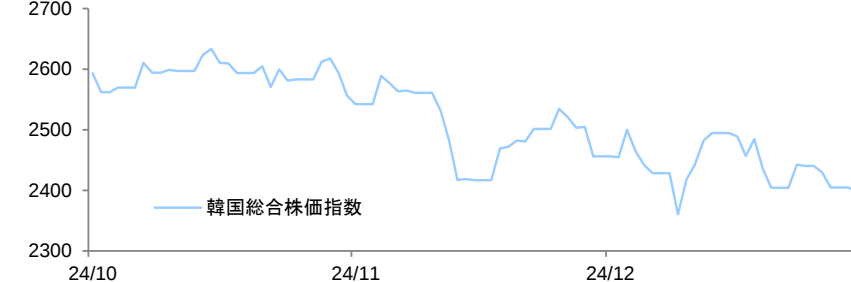
1月のドル/ウォンは底堅い推移の継続を予想する。国内政治の混乱は解決の糸口が見つかからない状況。憲法裁判所の欠員補充を巡っては与野党の対立が続いており、野党は次々に弾劾法案を提出。また、尹大統領に対しては韓国合同捜査本部が内乱容疑で逮捕状を請求したと報じられる。政治の麻痺状態が長期化する懸念が高まっており、外交の空白についても憂慮される。25年1月にトランプ新政権が誕生した後のかじ取りなど不確実性は高い。韓国中銀にしても断続的な為替介入と推測される動きが見られるも、今般のウォン安は政治不安に端を発しており、その根本原因の解決が見通しづらい中では焼け石に水となろう。

1月BOK会合は現時点では政策金利据え置きとの見方が優勢。インフレはここ数か月2%水準を下回って推移するものの、継続的な利下げは韓米金利差の拡大から一段のウォン売りを誘発する懸念がある。年初実需フローが回復するにつれ、輸出勢のドル売り実需が上値を押さえる場面が期待されるも、政治問題の早期解決が難しいことを勘案すると、1月のドル/ウォンは堅調推移の継続が予想される。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/1	貿易収支	11月	\$5050M	\$5610M	\$3167M
12/1	輸出(前年比)	11月	2.8%	1.4%	4.6%
12/1	輸入(前年比)	11月	-0.9%	-2.4%	-1.7%
12/3	CPI(前年比)	11月	1.7%	1.5%	1.3%
12/11	失業率	11月	2.8%	2.7%	2.7%
12/24	消費者信頼感	12月	-	88.4	100.7

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/1	貿易収支	12月	\$4300M
1/1	輸出(前年比)	12月	3.8%
1/1	輸入(前年比)	12月	2.7%
1/16	BOK政策金利	1月	3.0%
1/22	消費者信頼感	1月	-
1/23	GDP(前年同期比)	4Q	-

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 32.25 ~ 33.25
TWD/JPY 4.52 ~ 4.95

東アジア資金部台北室 ヤン チェンロン

■ 先月の為替相場

12月のドル/台湾ドルは上昇した。

月初の12月2日は32.495でオープン。トランプ次期大統領が中国及びカナダ、メキシコへの関税発動の意向を示したことで、国際為替市場ではドル高圧力が強まり、台湾ドルは32.60台まで下落しが、台湾株は好調なハイテク・セクターにけん引され、リスクセンチメントの改善に伴う台湾ドル買いが入り、ドルは上値重い展開となった中、輸出企業によるドル売りが加速し、台湾ドルは一時32.40割れ水準まで急伸。

月央になると、米コアCPIは前月比+0.308%と市場予想(同+0.3%)と概ね一致、市場は12月米利下げへの確信を一段と強めたものの、台湾ドルへの影響は限定的に留まり、概ね32.40-32.60でレンジ推移。

月後半に入ると、米FRBは予想通り利下げをしたが、今後の経済見通しでは2025年利下げ幅を100bpから50bpへ縮小したことを受け、ドルは米長期金利とともに急上昇し、台湾ドルは32.70台まで反落。その後、台湾中銀は慎重姿勢を維持しながらも3会合連続で政策金利を2.0%に据え置いたことで、市場の反応は薄く、台湾ドルは32.75を中心にレンジ推移となった。

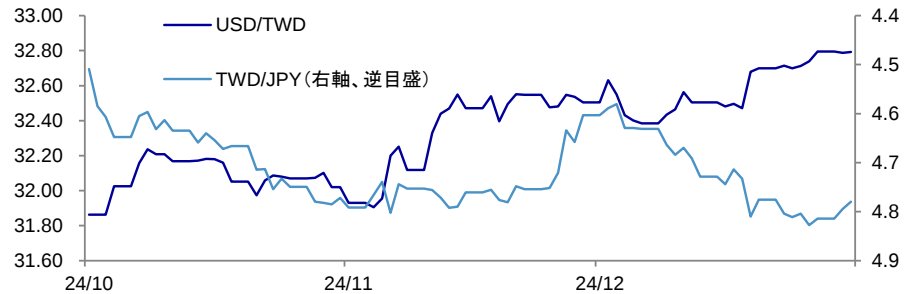
■ 今月の見通し

1月のドル/台湾ドルはレンジ相場を見込む。

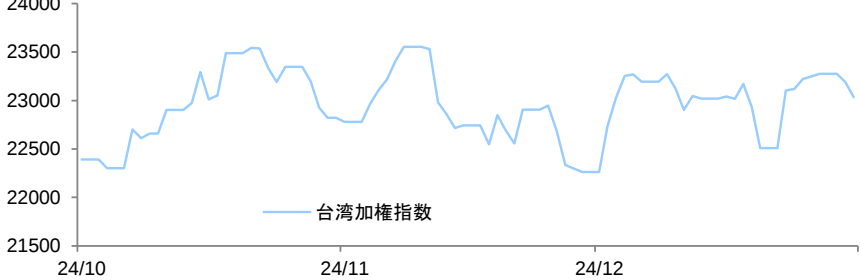
12月に行われた台湾中銀の金融政策決定会合では、政策金利を2.0%に据え置いたことに加え、6月と9月の会合とは対照的に、預金準備率及び住宅市場に対する信用規制も現状を維持。また、AI関連需要が台湾の輸出を支え続けている中、内需も拡大し続けていると指摘し、2024年のGDP成長率を前回の3.8%から4.1%に引き上げた。2025年の見通しは3.1%ではほぼ変わらず。一方、インフレ率について、2024年の2.2%から2025年には1.9%に鈍化すると予想。

1月のドル/台湾ドルについては、FOMC後米金利の高止まりはドルの下値を支える一方、トランプ政権の関税引き上げ政策を回避するための駆け込み需要が想定よりも大きくなった場合、旧正月前に輸出企業によるドル売りの増加も台湾ドルの下値をサポートすることで、ドル/台湾ドルは32元台後半を中心にレンジ相場となる見通し。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/2	製造業PMI指数	11月	-	51.5	50.2
12/5	CPI(前年比)	11月	1.9%	2.1%	1.7%
12/9	輸出(前年比)	11月	8.4%	9.7%	8.4%
12/19	台湾中銀金融政策決定会合(政策金利)	12月	2.0%	2.0%	2.0%
12/20	輸出受注(前年比)	11月	6.6%	3.3%	4.9%
12/23	鉱工業生産(前年比)	11月	8.90%	10.29%	8.85%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/7	CPI(前年比)	12月	-
1/9	輸出(前年比)	12月	2.10%
1/22	失業率	12月	5.80%
1/23	鉱工業生産(前年比)	12月	-
1/24	GDP(前年比)	4Q	-
1/24	GDP(前年比)	2024	-

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7650 ~ 7.7900
HKD/JPY 19.90 ~ 20.60

東アジア資金部 香港室 Ken Cheung

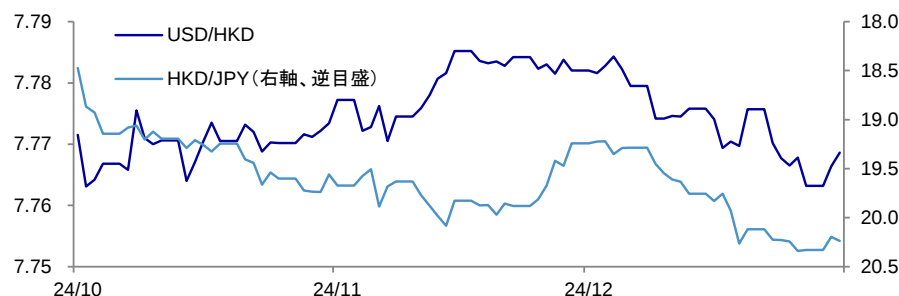
■ 先月の為替相場

12月に入り、中国共産党政治局会議と中央経済工作会議を経て、中国の景気刺激策への期待が再燃した。これによりハンセン株式指数は上昇し、株式市場への資金流入が促されたことで香港ドルの直物相場は7.77レベルに達した。中国国債の利回りが過去10年で最低となった事で中国本土の投資家は運用利回りを求めて香港株式への投資を積み増している。IPO市場に目を向けても年末にかけて複数の企業が上場計画をするなど、景況感が回復傾向にある中、本土から香港への資金流入は7800億香港ドルを超えた。IPO関連の取引総額は100億米ドルを超え、2023年の59億米ドルを大幅に上回った環境下で複数のIPO案件では応募が殺到し、新規上場の募集期間に香港ドルの需要が高まった。一方、トランプ政権1期目における香港の特別地位の剥奪や香港自治法の成立にも関わらず、今回のトランプ氏再選を受けても香港ドルと米ドルのベッグ制の安定性への懸念は大きく浮上しなかった。実際、米ドルから香港ドルへの両替を制限する事は、米国金融業界にとって大きな負担になるだけでなく、準備資産としての米ドルの地位を損ねる可能性がある。12月初旬、トランプ次期大統領はBRICS諸国に対して、脱米ドル化した場合は100%の関税を課すと警告したことからもトランプ次期政権は基軸通貨である米ドルの地位を揺るがすような政策を避ける意向を示していると言えるだろう。

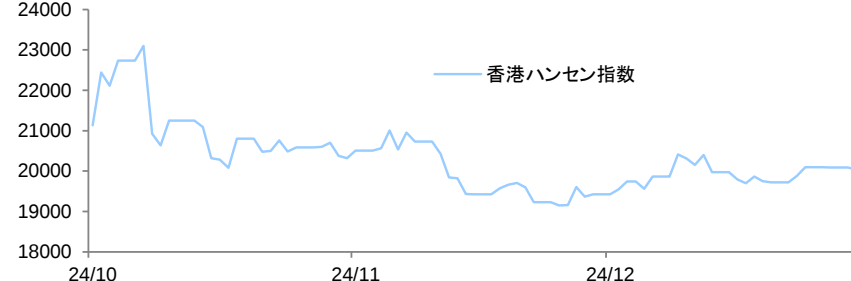
■ 今月の見通し

香港株式市場の反落とFRBのタカ派な姿勢により香港ドル高は一服しているものの、現在の米国利下げ局面では、香港ドル直物相場は取引バンドの香港ドル高のレンジ(7.75-7.80)で推移すると予想している。FRBの利下げサイクルの早期終了は米ドル金利を下支えし、香港ドル-米ドルベッグで香港ドル高を押し戻し、FRBの金融政策の観点から香港ドルが7.75台に達する可能性は低いだろう。しかし、香港株式市場の上昇は、これよりも更に期待できる。もし中国政府がアメリカの対中・香港関税の強化などの外部的な圧力に対する取り組みを強化すれば、ハンセン株式指数は再び上昇傾向に回帰するだろう。我々は米国の対中関税強化への対抗策として中国当局は来年財政支出を拡大し、個人消費を増加させることで、急速な人民元安の動きを抑制すると考えている。中国が金融緩和政策へ大きく政策転換したことを受けて、本土投資家によってストック・コネクト(中国本土市場との株式相互取引制度)等を通じた香港株式市場での高リターンへの追求が続き、香港ドル買い需要に貢献するだろう。また、中国本土のA株市場へのIPO規制が強化される中、中国企業の香港株式市場への上場が促進されて来年のIPO市場は更に改善する事が期待される。香港に目を向けても、域内経済の改善と不動産市場の安定は企業融資・不動産融資の需要を高め、アメリカと香港の金利差を中期的に縮小させるだろう。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/4	S&P Global Hong Kong PMI	11月	-	51.2	52.2
12/6	外貨準備高	11月	-	425.1b	421.4b
12/17	失業率(季調済)	11月	3.10%	3.10%	3.10%
12/20	CPIコンボジット(前年比)	11月	1.60%	1.40%	1.40%
12/30	輸出(前年比)	11月	4.10%	2.10%	3.50%
12/30	輸入(前年比)	11月	4.90%	5.70%	4.50%
12/30	貿易収支(HKD)	11月	-31.5b	-43.4b	-31.0b

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/2	小売売上高(価額,前年比)	11月	-3.4%
1/6	S&P Global Hong Kong PMI	12月	-
1/7	外貨準備高	12月	-
1/20	失業率(季調済)	12月	-
1/21	CPIコンボジット(前年比)	12月	-
1/27	輸出(前年比)	12月	-
1/27	貿易収支(HKD)	12月	-

中国人民元相場

予想レンジ: USD/CNY 7.2500 ~ 7.3800
CNY/JPY 20.35 ~ 22.10

中国為替資金部 竹本 寛

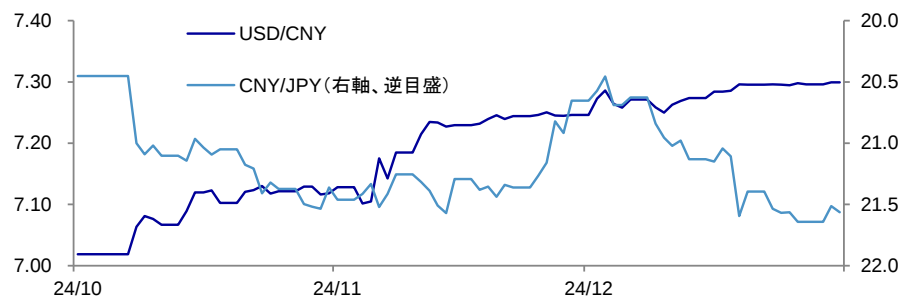
■ 先月の為替相場

12月のUSDCNY(オンショア)は上昇した。2日、7.24台半ばでオープン。中国の金融緩和期待を背景に中国10年債利回りが低下し2%を下回って過去最低を更新する。中米金利差の拡大を受けドルで大幅に人民元安が進行、3日には7.29台後半まで上昇し約1年1か月ぶりに節目の7.30に接近。その後、米ISM非製造業や米ADP雇用統計等の米経済指標の下振れにより米金利が低下、ドル売り優勢となって5日には一時7.25台前半まで下落。9日、中央政治局会議において「積極的な財政政策」と「適度に緩和的な金融政策」の方針が示され、景気支援強化への期待感から元高優勢、10日には7.23台後半へ下落。一巡後は水準を7.27台まで回復させた。12日、中央経済工作会议閉幕後の通達において財政赤字の対GDP比引き上げ等、中央政治局会議の内容を踏まえた施策方針が公表されたが、相場の反応は限定的となった。その後はFOMCを控えて値幅が限定的となる中、FEDのタカ派傾斜への警戒感や中国債利回りの低下等を背景にUSDCNYは7.28台までじり高で推移。18日、タカ派なFOMC結果による米金利上昇、ドル高を受けて、翌19日には7.2999まで上昇し年初来高値を更新した。その後は動意に乏しい展開が続き、31日は7.2994でクローズした。

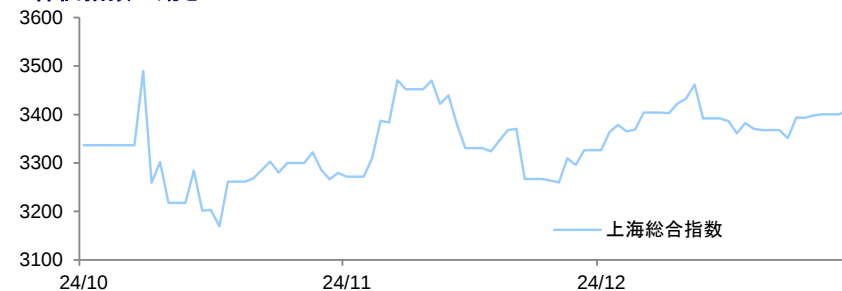
■ 今月の見通し

1月のUSDCNY(オンショア)は底堅い推移を予想する。次期トランプ大統領就任により、拡張的な財政政策による米国経済の他国対比でのアウトパフォーマンスに対する期待感は短期的なドル高を誘発する可能性が高い。特に対人民元においては公約として対中関税の強化を掲げる中、前回のトランプ政権時の米中貿易摩擦過熱期間の値動き(18年7月初回対中追加関税発動～20年1月「第一段階」合意)を踏まえれば、今次実施時においても元安圧力が高まりが想定される。トランプ氏が主張する対中関税60%に向けた実行可能性、規模や時期は現時点で不透明だが、一部米シンクタンクが大統領就任後の早期実行を指摘する等、短期的にも元安リスクを警戒しておきたい。中国サイドでは、中央経済工作会议にて積極的な財政政策と“適度に緩和的な”金融政策が方針として示された。成長率目標や内需拡大を中心とした景気刺激策の詳細は3月の全人代を待つことになるが、中国のファンダメンタルズ回復期待は依然乏しく、市場が利下げ期待を強める中で中国債利回りにも低下圧力がかかる。他方、タカ派傾斜した米FRBとの方向感の対比もUSDCNYの下値をサポートする要因となり得る。一方、PBOCは足元で反循環的な仲値設定によるUSDCNYの日中値幅のコントロールを強めており、一方向へ圧力がかかる状況に対しては今後も為替相場安定化を図る蓋然性が高く、急速な元安進行リスクはそれほど高くはないと想定。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/2	財新製造業PMI	11月	50.6	51.5	50.3
12/9	CPI(前年比)	11月	0.4%	0.2%	0.3%
12/16	鉱工業生産(前年比)	11月	5.4%	5.4%	5.3%
12/16	小売売上高(前年比)	11月	5.0%	3.0%	4.8%
12/16	都市部固定資産投資(年初来前年比)	11月	3.5%	3.3%	3.4%
12/20	LPR 1年物		2.00%	2.00%	2.00%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/9	CPI(前年比)	12月	0.10%
1/17	GDP(年初来前年比)	4Q	-
1/17	鉱工業生産(前年比)	12月	-
1/17	小売売上高(前年比)	12月	-
1/17	都市部固定資産投資(年初来前年比)	12月	-
1/20	LPR 1年物		-

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3550 ~ 1.3900
SGD/JPY 111.00 ~ 118.00

アジア・オセアニア資金部 松本 彩花

■ 先月の為替相場

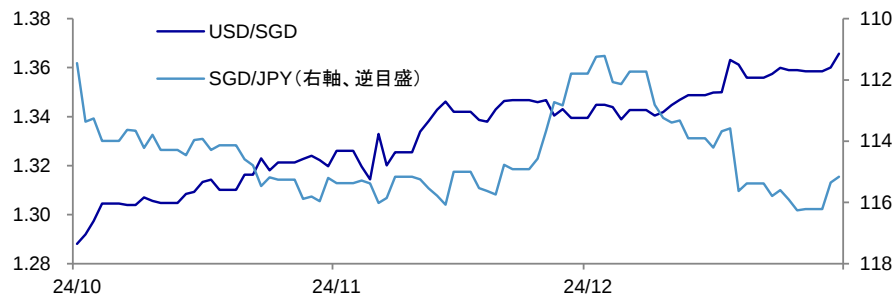
先月のUSD/SGDは上昇。

月初2日USD/SGDは1.33台後半で取引開始。月後半に控えるFOMCでの利下げ有無に対する思惑や、韓国における非常戒厳宣言を受けたリスク回避の動きから月初週のUSD/SGDは一進一退の値動きに。12月FOMCにおける利下げ有無を巡り、米11月雇用統計や米11月CPI等の重要な米経済指標に注目が集まったが、6日公表の米11月雇用統計は強弱入り混じる内容に。続いて11日に公表された米11月CPIについては前年比+2.7%と市場予想通りの結果。これらの経済指標の公表を受け一時ドルが弱含む場面も見られたが、月半ばにかけては米金利上昇を材料にUSD/SGDは1.35台前半まで緩やかに水準を切り上げた。

12月17日-18日開催のFOMCでは市場予想通り25bpの利下げを決定。一方で、12月公表のドットチャートにおいては2025年度の利下げ見通しが4回から2回に下方修正となった。また、中立金利も3%に上方修正となり、2025年度の利下げ観測後退から米金利が急伸。ドルが買われる展開となり、18日にUSD/SGDは1.36台前半まで上昇。

FOMCを通過すると、クリスマス・年末年始の流れから市場の流動性も薄まり徐々に閑散相場へ。23日にはシンガポールのCPIが発表され、総合指数は前年比+1.6%と予想を下回ったが反応は限定的。月末にかけては方向感に欠ける推移となり、結局USD/SGDは1.36台半ばで12月の取引を終えた。

■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/5	小売売上高(前年比)	10月	2.4%	2.2%	2.0%
12/17	非石油輸出(前年比)	11月	-1.0%	3.4%	-4.6%
12/23	CPI(前年比)	11月	1.8%	1.6%	1.4%
12/26	鉱工業生産(前年比)	11月	9.7%	8.5%	1.2%

■ 今月の見通し

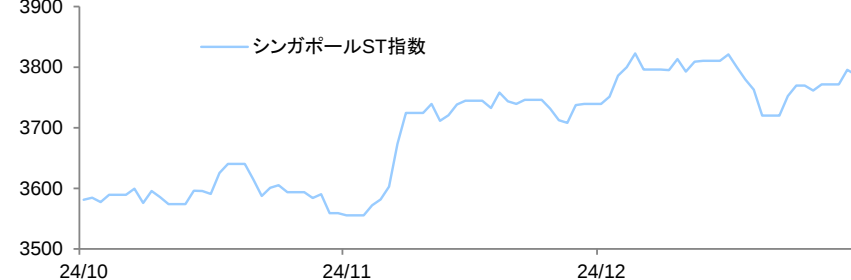
今月のUSD/SGDは底堅い値動きを予想。

今月もFOMCが予定されている。12月公表のドットチャートによると今年度の利下げ見通しは合計2回となっており、現状次回会合においては利下げ見送りとの見方が強い状況。また、20日の大統領就任式を経てトランプ政権始動となるが、米政治における不透明感も踏まえパウエル議長より今年度の金融政策運営についてどのような見解が示されるかに注目したい。

シンガポールにおいても今月MAS会合開催予定。MASは前回10月会合において現行の金融政策バンドは引き続き適切な水準とし6会合連続で金融政策の現状維持を決定しており、2022年10月以降政策変更を行っていない。直近公表のシンガポール11月CPIは総合指数が前年比+1.6%、コア指数が前年比+1.9%と共に鈍化が示されており、特にコアCPIについては約3年ぶりの低水準に。MASが金融緩和を検討する余地が広がったとの声も根強いが、金融政策変更について当局より具体的な情報発信は特段ない状況。トランプ次期政権の政策がシンガポール経済に影響を及ぼす可能性も想定できることを踏まえると、1月会合においては現状維持の可能性が高いのではないかと考える。

上述の通り、今年度における米利下げペース鈍化が示されている中、目立ったドル売り材料は足元見当たらない。前月同様に米経済指標の結果を受けてUSD/SGD相場が上下動する展開は視野に入りたいが、方向感としては底堅い値動きが継続すると予想。

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/2	GDP(前年比)	4Q	3.8%
1/3	小売売上高(前年比)	11月	1.5%
1/17	非石油輸出(前年比)	12月	-
1/23	CPI(前年比)	12月	-
1/24	鉱工業生産(前年比)	12月	-

タイパーツ相場

予想レンジ: USD/THB 34.00 ~ 35.20
THB/JPY 4.45 ~ 4.65

アジア・オセアニア資金部バンコック室 リ チョンユエ

■ 先月の為替相場

12月は多くの中銀会合が開催される中で、ドルパーツはボラタイルな展開となるも、底堅さを見せた。

34パーツ台前半の水準で月初の取引を開始。トランプ次期米大統領がBRICS諸国の脱ドル化を強くけん制する意向を示したことや、韓国の政情不安を受け、アジア通貨は対ドルで全般的に売られる中で、パーツ安地合いに。ただ、9日に中国政治局会議にて2025年は積極的な財政政策と適度に緩和的な金融政策を実施する方針が示されたことが伝わり、人民元買いが強まり、パーツにも波及したことで、パーツ買い優勢に転じ、34パーツを割り込む展開となった。その後、米11月CPIは市場予想通りとなり波乱なく通過し、12月FOMCでの利下げ観測が強まる中で、上値の重い推移が続いた。

中旬、18日にタイ中銀が大方の予想通り政策金利の据え置きを発表するも、市場の反応は限定的となった。しかし海外時間のFOMCにおいて25bpの利下げが発表された一方、来年以降の予想利下げ回数が半減され、米利下げペース鈍化観測が強まったことで、34パーツ台半ば付近まで急伸。

下旬、クリスマス休暇の前に流動性が徐々に低下していく中で、20日に米11月PCE価格指数が市場予想を下回ったことを受け、34パーツ台前半まで下落。以降は流動性乏しい中、同水準での推移が継続し、そのまま年末の取引を終えた。

■ 今月の見通し

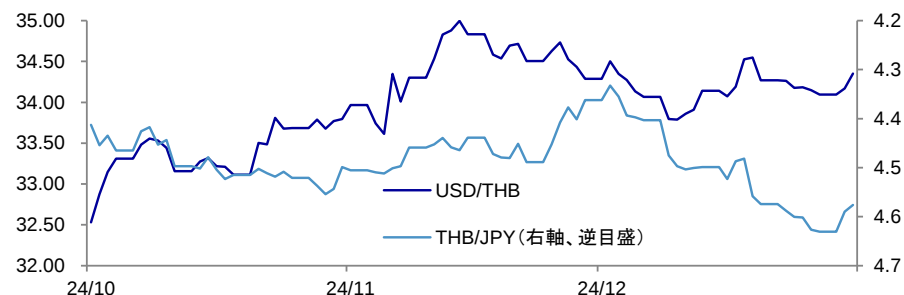
1月のドルパーツは堅調推移を予想する。

12月のFOMCを経て、ドットチャートで示された来年の米国予想利下げ回数が4回から2回へ半減され、長期のFF金利見通しは2.9%から3.0%へ上方修正された。声明文のフォワードガイダンス部分も今後の利下げペースの緩和を示唆した。今回のタカ派的な政策決定を受け、利下げ局面終了もにわかには視野に入ってきたため、暫くドル買い優勢の地合いが続くと見ている。

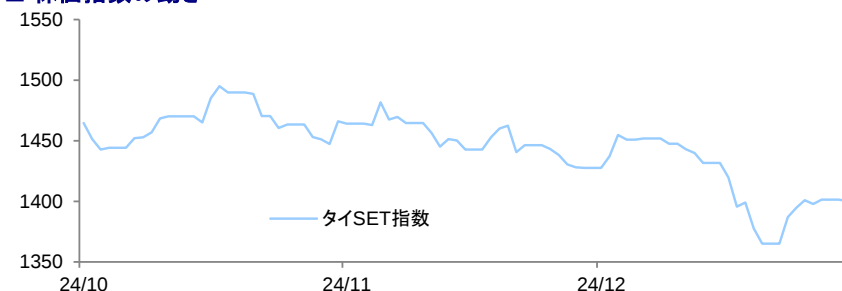
一方でアジア地域においては、トランプ関税の思惑以外にも中国経済の先行き不透明感や韓国の政治的混乱など、アジア通貨の売り圧力が続いているため、パーツは連れ安となる可能性がある。金融政策面では、トランプ次期政権による貿易リスクを背景に韓国中銀が2回目の利下げを実施し追加緩和の可能性も示唆したり、中国では政治局会議で来年の緩和的な金融政策の実施方針が示されるなど、一部中銀の利下げは既定路線となっていることや緩和姿勢が正当化されている状況はアジア新興国通貨の重しになっている。かかる中で、タイ政府は前回の利下げに続く再度の利下げを中銀に要求していたが、中銀は12月の会合で政策金利の据え置きを決めた。今後は政府と中銀の対立激化や市場の利下げ回数増加の思惑が強まりやすくなると考えられ、パーツ相場のマイナス要因と見ている。

以上を踏まえると、ドルパーツは堅調推移を予想。但し、トランプ次期政権が関税を大幅に引き上げ、各国が米国に対する報復措置を導入する場合、相場が急激に変動することに留意しておきたい。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/4	CPI YoY	11月	1.14%	0.95%	0.83%
12/4	CPI コア YoY	11月	0.77%	0.80%	0.77%
12/18	タイ中銀政策金利		2.25%	2.25%	2.25%
12/24	自動車販売台数	11月	-	42,309	37,691
12/25	輸出(通関ベース)YoY	11月	9.0%	8.2%	14.6%
12/25	輸入(通関ベース)YoY	11月	1.3%	0.9%	15.9%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/6	CPI YoY	12月	1.4%
1/6	CPI コア YoY	12月	0.9%
1/18-1/24	自動車販売台数	12月	-
1/27-1/31	輸出(通関ベース)YoY	12月	-
1/27-1/31	輸入(通関ベース)YoY	12月	-

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.4000 ~ 4.5500
MYR/JPY 34.00 ~ 35.70

マレーシアみずほ銀行 鈴木 一勲

■ 先月の為替相場

12月のUSD/MYRは上下に振れながらも、27日時点では11月末対比小幅なリング安で大きな方向感が出ず。

上旬はトランプ氏による中国への追加関税への懸念でドル高から始まったが、パウエルFRB議長の米経済に対するポジティブなコメントや、12月米利下げ織り込みの高まりから月安値となる4.42近辺で暫く推移。

中旬に発表された注目の米11月CPIは予想と一致。しかし、トランプ氏の法人減税への発言で米インフレ再燃懸念から米金利が上昇すると、広くドル高が進行。加えて米時間18日に結果発表された12月FOMCでは予想通り25bpの利下げが決まったものの、将来の金利見通しが引き上げられたほか、パウエル議長からも現在の水準が中立金利に近づいたとする発言が出る等総じてタカ派な内容となった。ドル指数が利上げ真っ只中だった2022年11月以来の水準まで上昇する中、アジア通貨は総じて対ドルで下落。リングは節目である4.50容易く突破し、4.51台半ばまで上昇。

下旬は年内の重要イベントを全て通過し、クリスマスや年末ムードが濃くなる中、12月FOMCの消化が進んでドル高が一服。クリスマス明けには輸出勢と思しきフローが見られて一時4.46台まで下げ幅を拡大したが、27日には4.47台まで下げ幅を縮小。尚、12月27日時点までの年初来騰落率によると、2024年がMYR安で始まったこともあり、主要アジア通貨の中で最も対ドルで上昇した通貨となっている。

■ 今月の見通し

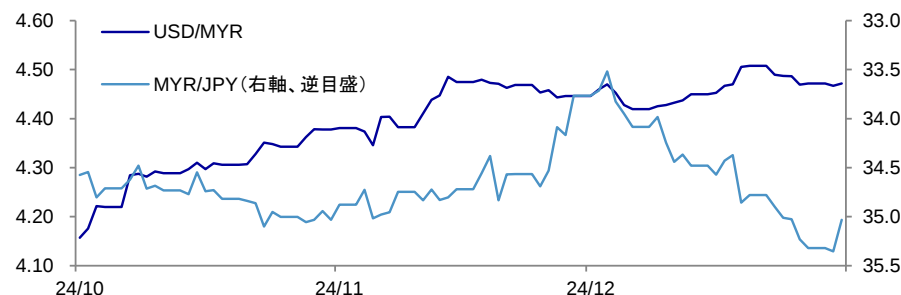
2025年のスタートはUSDが確り推移すると見込まれ、堅調な滑り出しを予想する。

国内では、馬4QのGDP速報値発表がある他、2025年1回目の馬中銀MPCも控えている。GDPについては3Qまで確報値が出ており、10-11月の貿易統計にてトランプ大統領就任前の駆け込みと思われる輸出の伸びも見られた。経済を支える輸出が堅調であるため、年間を通じた経済成長は5%以上を高い確率で達成できる見込み。これ自体はリングにとってプラス要素であるが、トランプ次期大統領の就任式も目前に迫っている。トランプ氏は改めて関税・減税に関して就任前後で言及する可能性が高い。そのため、馬経済の高成長を金融市場にアピール出来たとしても、関税と米法人減税に伴う米財政赤字の拡大懸念・米金利上昇という新興国通貨にとっての負のインパクトを反転させるほどの新鮮味やインパクトは無いだろう。

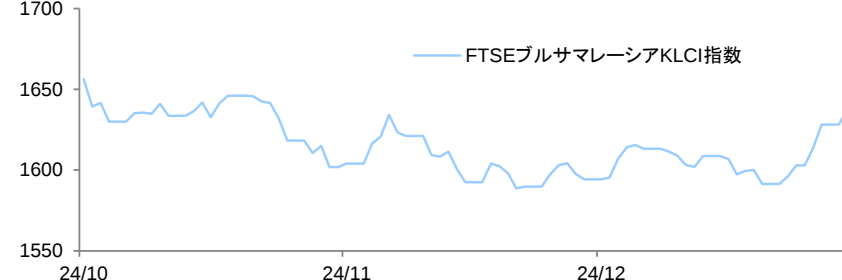
また、タカ派な利下げと評されたFRBの動向も気になる。FF金利が中立金利に近づいているという12月FOMC後のパウエル議長の発言をそのまま受け止めれば、1月FOMCでの追加利下げは見込めない。金融市場でも利下げはほぼ織り込まれておらず、これもドル安方向に動きにくくなる要因となるだろう。

1月はトランプ2.0のスタート地点であるだけに各国とも身構えている状況下、経済が好調という理由のみではリング買いを呼ぶことは困難であるため、USD/MYRは確りとした推移になると考える。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/2	S&P Global PMI Mfg	Nov	-	49.2	49.5
12/10	Industrial Production YoY	Oct	2.60%	2.10%	2.30%
12/18	Exports YoY	Nov	1.90%	4.10%	1.60%
12/18	Imports YoY	Nov	3.70%	1.60%	2.70%
12/18	Trade Balance MYR	Nov	9.40b	15.29b	11.87b
12/20	CPI YoY	Nov	2.10%	1.80%	1.90%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/10	Industrial Production YoY	Nov	-
1/17	GDP YoY	4Q	-
1/20	Exports YoY	Dec	-
1/20	Imports YoY	Dec	-
1/20	Trade Balance MYR	Dec	-
1/22	CPI YoY	Dec	-
1/22	BNM Overnight Policy Rate		-

インドネシアルピア相場

予想レンジ: USD/IDR 15700 ~ 16300
IDR/JPY 0.9400 ~ 0.9800

アジア・オセアニア資金部 綱島 正侑記
(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

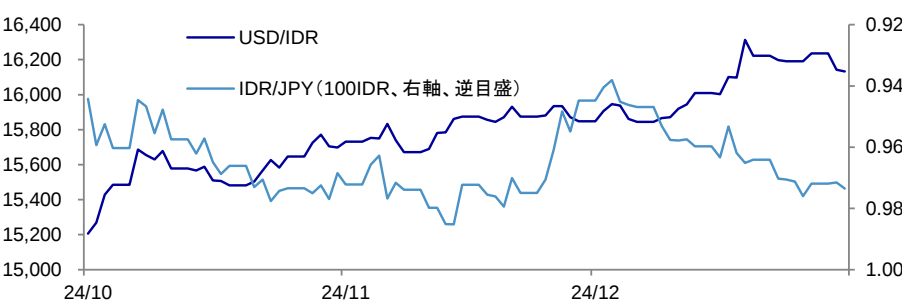
■ 先月の為替相場

12月のルピアは下落。
月初2日に15900台前半で取引を開始したドルルピアは、トランプ次期米大統領が新興国のドル離れの流れを受け「関税を100%課す」と発言したことを背景に、4日にかけ15900台後半を付けたが、その後は6日の米11月雇用統計の発表を控え調整の動きから15800台半ばまで値を戻す展開となった。しかし翌週9日以降は米金利上昇を受けドル買い圧力が高まり、ルピアはじりじりと対ドルで下落する流れが継続。13日には心理的節目となる16000に近づく中、インドネシア中銀から「かなり大胆に為替介入を実施」とのコメントが発表されたが、市場の反応は限定的となり16日には16000台に乗せた。ドル高の流れが継続する中、18日に行われたインドネシア中銀会合では政策金利の据え置きが決定されたが為替市場の反応は限定的。同日海外時間に発表されたFOMCにて2025年の利下げペースが鈍化するとの見通しが示されたことを受けドル買い圧力が強まると、翌19日のドルルピアは16200台後半までドル高が進展した。20日にはルピアは下落幅を縮小させ16200台前半まで値を戻し、その後は16100台後半から16200台前半を中心としたレンジで推移。月末にかけては16100台前半まで値を戻してクローズした。

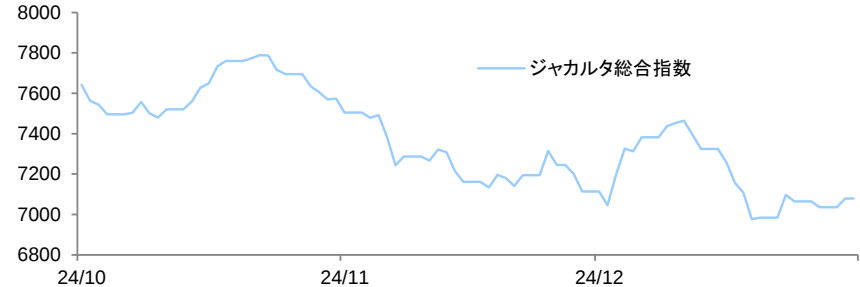
■ 今月の見通し

1月のルピアは底堅い値動きを予想。
トランプ氏の大統領選勝利や、米利下げペース鈍化等のドル高の流れをけん引してきた材料にも一服感が出つつあることから徐々にドル高の流れが一服するものと予想する。
インドネシア中銀は引き続き通貨の安定を優先するとの姿勢を維持しており、昨年12月には「かなり大胆に為替介入を実施」とコメントする等、今回も通貨安に対する危機感を募らせているものと推察される。また、今月初2日に発表された12月消費者物価指数(CPI)の結果は前年同月比+1.57%となり、11月に引続き中銀のインフレ誘導目標レンジの下限に近接しており、中銀としては利下げに踏み切りたいとの思惑もあろう。しかしながら、追加利下げに踏み切るためには更なる通貨安が進展しない様、ルピア高に為替水準を戻すことが前提となる。そういった観点からもインドネシア中銀としては足許で進展するドル高に対しては通常以上に強いスタンスで介入するものと予想する。
また、インドネシアの11月貿易収支は+44億ドル超の黒字となり、2024年3月以来の高水準となっており、需給面でのルピア売り圧力も弱まっていると考えられる。1月のルピアは当局による通貨安定策に加え、需給面の改善も追い風となり12月の下落分を一部取り戻す値動きとなると予想する。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/2	CPI(前年同月比)	11月	1.50%	1.55%	1.71%
12/16	貿易収支(USD M)	11月	2,342	4,420	2,483
12/16	輸出(前年比)	11月	6.30%	9.14%	10.27%
12/16	輸入(前年比)	11月	7.08%	0.01%	17.49%
12/18	BI 金利		6.00%	6.00%	6.00%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/2	CPI(前年同月比)	12月	1.58%
1/15	BI 金利		-
1/15 - 17	貿易収支(USD M)	12月	-
1/15 - 17	輸出(前年比)	12月	-
1/15 - 17	輸入(前年比)	12月	-

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 57.00 ~ 59.00
JPY/PHP 0.365 ~ 0.385

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 福田 俊輔

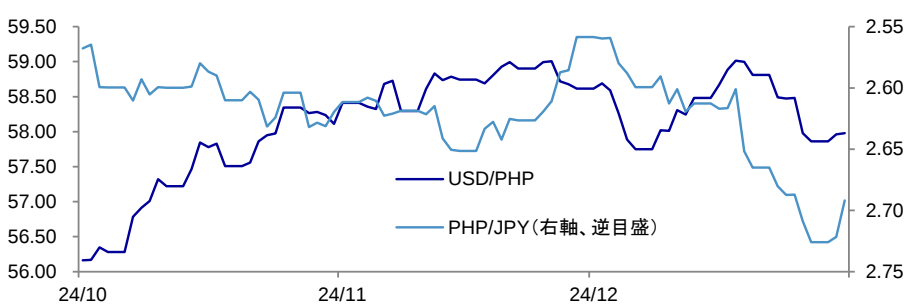
■ 先月の為替相場

【12月のドルペソ相場は、年初来のペソ安値圏での攻防戦】
12月初のドルペソ相場は、1米ドル＝58.66ペソで開始。12月中旬に控えるFOMCで利下げ有無の見方が分かれる中、FRB高官からの利下げを示唆する発言以降、市場参加者は相場観を修正。ドルペソ相場は58ペソ台後半から足早に57ペソ台後半まで下落。その後、発表された比11月分物価統計では、概ね予想と一致する結果(前年比+2.5%、予想+2.5%、前回+2.3%、前月比+0.4%、予想+0.3%、前回+0.2%)となったが、比中銀からの会見で「今回のデータを考慮しながら、引続き金融緩和のサイクルは維持する」にとどまった。以前のように明確に利下げを示唆するコメントが見られず、比中銀の12月利下げ有無への不透明感が強まった。その結果、11月に続き、再び年初来のペソ安値となる、59ペソちょうどまで上伸し、膠着商状のまま中銀イベントを迎える。
12月中旬にかけて、日米比の金融政策決定会合結果および会見等により、今後の見通しが示される中、米比ともに利下げペースの後退が示された。加えて、比中銀からは足許のペソ安水準についての懸念が示され、市場を牽制。
12月下旬になると、段階的にペソ高に向かう展開へ。月末にかけて、じりじりとペソが買われ、結局、58ペソを挟む水準でもみ合いながら年内の取引を終えた。

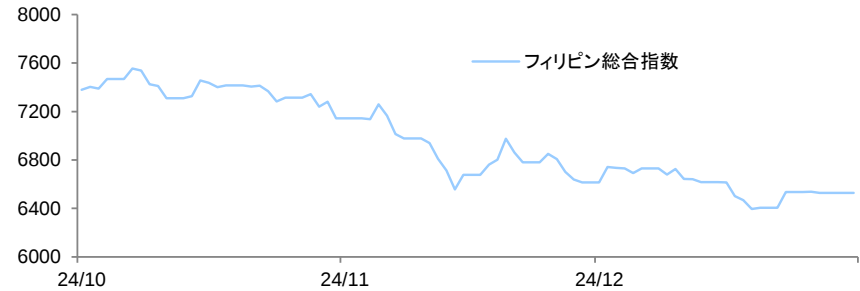
■ 今月の見通し

【1月は再び史上最安値の59ペソを捉えらえるかどうか】
12月後半に入ってから比中銀からのコメントでは、今後の経済指標が想定内の動きであれば、引続き金融緩和の継続を示唆する一方、2025年初回の比金融政策決定会合で利下げをするか未定である事を新たに示した。従来は、2025年通年で▲1%の政策金利引下げを想定しており、市場参加者の間では年前半での利下げ継続が見込まれていた。また、2025年後半から2026年に向け、物価上昇圧力が高まる事を比中銀が見込んでいる中、1月上旬に比12月分物価統計が公表予定。結果次第では、利下げ継続か据置きかの方向感が定まり、新年早々から、相場に方向感が出てくる可能性がある。2024年終盤に、足早にペソ高に向かった事もあり、上値は暫く重たいであろうが、次回米利下げ時期が後退気味な環境下、ドル高ペソ安圧力は根強いだろう。メインシナリオとしては、再び史上最安値の59ペソを捉えに行く動きと考える。
リスクシナリオとしては、就任間近のトランプ米新大統領の言動に注意を払いたい。政策方針などの考えが示される都度、相場を動かす材料となるであろう。
1月上旬の米比の経済指標結果に一喜一憂しつつ、12月同様にドルペソ相場は予想レンジの上下限で大きくスイング(往來)する展開も想定しておきたい。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/5	CPI(前年比)	11月	2.50%	2.50%	2.30%
12/10	貿易収支(100万ドル)	10月	-4994	-5803	-5100
12/16	在外フィリピン人労働者送金額(前年比)	10月	3.20%	2.70%	3.30%
12/16	BSP翌日物借入金利		5.75%	5.75%	6.00%
12/26	月次財政収支(10億ペソ)	11月	-	-213	6.3

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/7	CPI(前年比)	12月	2.60%
1/9	貿易収支(100万ドル)	11月	-5445
1/15	在外フィリピン人労働者送金額(前年比)	11月	-
1/30	GDP	4Q	-

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 84.60 ~ 86.50
INR/JPY 1.77 ~ 1.91

アジア・オセアニア資金部 インド室 綿引 修平

■ 先月の為替相場

【12月の米ドル/インドルピーは最安値を更新する展開】

84台半ば水準にて当月取引を開始。月初については、当該水準で揉み合いに終始するも、インド準備銀行(RBI)からの資金流入拡大に向けた措置拡大とのコメントも相俟って、調整色を強める局面を見せる。一方、月央から月末にかけては、USD高圧力に連れられる恰好で緩やかなルピー安の流れに転じ、85水準を超えて最安値を更新する展開に。RBIからの上値抑えの為替介入(USD売り・INR買い)にて過度なルピー安は抑制されているも、結局、85台前半水準にてクローズ(19日時点)。

SENSEXは、月初は79,000台前半水準でスタート後、じりじりと上昇基調の展開に、80,000水準を回復。その後は、82,000水準での横這い推移が継続するも、月末にかけては調整局面を迎え、再び80,000水準を割り込んだクローズとなった(19日時点)。外国人投資家からのインド株への投資資金流入は、12月単月は買い越しの勢いが戻り始めており、今後拡大基調となるか注視していく必要あり。

インド経済指標では、11月製造業/サービス業PMIは前回対比で低下する結果に。12月金融政策委員会(MPC)は、11会合連続となる政策金利据え置き(6.50%)を実施し、政策スタンスは中立スタンスを維持。一方、預金準備率は4.0%と、前回から▲0.5%引下げ。11月消費者物価指数(CPI、前年比)は+5.48%と、前回の+6.21%から低下。11月貿易収支は、赤字幅は拡大し、引き続き赤字は常態化。通貨として弱い立ち位置は変わらず。

■ 今月の見通し

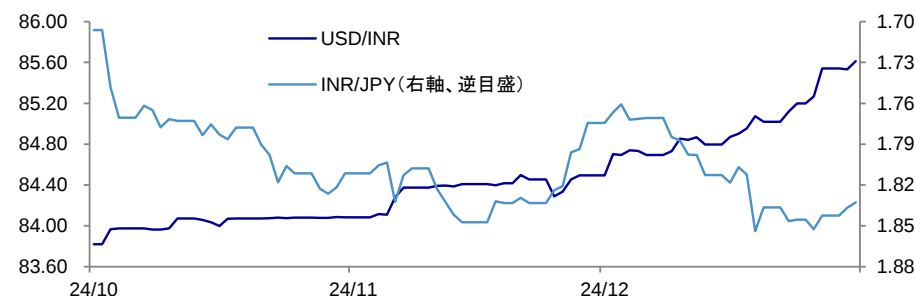
【1月の米ドル/インドルピーは、節目85水準での攻防か】

1月においては、最安値更新後の節目85水準での攻防を見込む。RBIからの上値抑えの為替介入に伴って、ルピー安の進行に歯止めをかけている状況と認識しており、引続き、RBIからのアンダーコントロールが奏功することで、値幅は限定的となる想定。一部では、RBIより複数銀行に対してロングポジション(USD買い・INR売り)の削減を指示しているとの報道もあり、上値重く調整局面を迎える展開を見込むも、節目85水準近傍での実需勢のフローやRBIからの下支えの為替介入(USD買い・INR売り)が散見されるのか、注視していきたい。

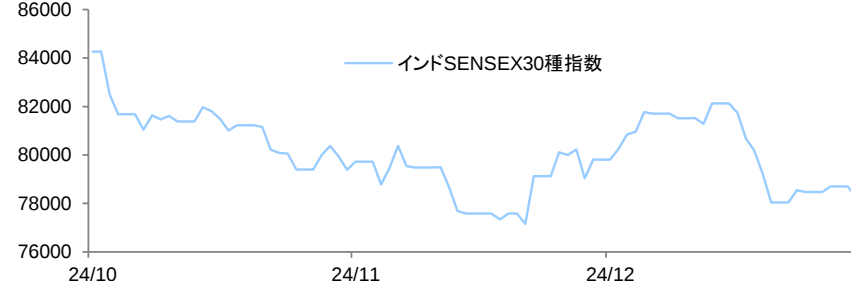
12月金融政策委員会(MPC)では、政策金利は6.50%の据え置きとなり、政策スタンスも中立を維持。利下げ票は2票入っており、今後の利下げ局面入りのメインシナリオは不変であるが、インフレ動向は落ち着きを見せておらず、ダス総裁からの「デフインフレのラストワンマイルが長引いた」とのコメントや、中銀インフレ見通しの引上げから、来年半ばまで利下げ時期の後ろ倒しの可能性も。

12月は、インド株・インド債券への投資資金流入については、買い越しに転じ、徐々に上昇基調を取り戻しつつある状況。米利下げに伴うUSD売り圧力でのルピー高といったシナリオも、思った程のUSD売りインパクトには至らず、むしろ1期待感の巻き戻しから反発の様相も。過度なルピー高となる際のRBIからの下支えの為替介入および実需勢からのアウトフロー(インドルピー売り)が奏功することで、緩やかにルピー安回帰というメインシナリオも、最安値更新が続く場合は、RBIからの上値抑えの為替介入の強まりにより、抑制されていく見込み。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/2	製造業PMI	11月	-	56.5	57.5
12/4	サービス業PMI	11月	-	58.4	58.5
12/6	政策金利	12月	6.50%	6.50%	6.50%
12/12	鉱工業生産	10月	3.60%	3.50%	3.10%
12/12	CPI	11月	5.50%	5.48%	6.21%
12/16	貿易収支(百万ドル)	11月	-23000	-37837	-27142

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
1/2	製造業PMI	12月	-
1/6	サービス業PMI	12月	-
1/10	鉱工業生産	11月	-
1/13	CPI	12月	-
1/15	貿易収支(百万ドル)	12月	-

■ 為替市場見通し(四半期末の予想レベル)

	2025年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	2026年 1～3月期
先進国					
USD/JPY	154	156	157	160	162
EUR/JPY	160	161	159	157	162
GBP/USD	1.24	1.22	1.24	1.26	1.28
AUD/USD	0.625	0.645	0.665	0.690	0.690
USD/CAD	1.44	1.42	1.40	1.39	1.38
エマージング					
USD/KRW	1470	1470	1450	1420	1400
USD/TWD	33.0	32.7	32.5	32.3	32.3
USD/HKD	7.76	7.76	7.75	7.76	7.76
USD/CNY	7.32	7.38	7.23	7.12	7.12
USD/SGD	1.36	1.37	1.34	1.32	1.32
USD/THB	34.8	35.2	34.3	33.6	33.5
USD/MYR	4.53	4.53	4.30	4.12	4.14
USD/IDR	16250	16300	15650	15200	15230
USD/PHP	59.5	59.6	57.2	56.5	56.3
USD/INR	85.8	86.0	84.8	84.3	84.3

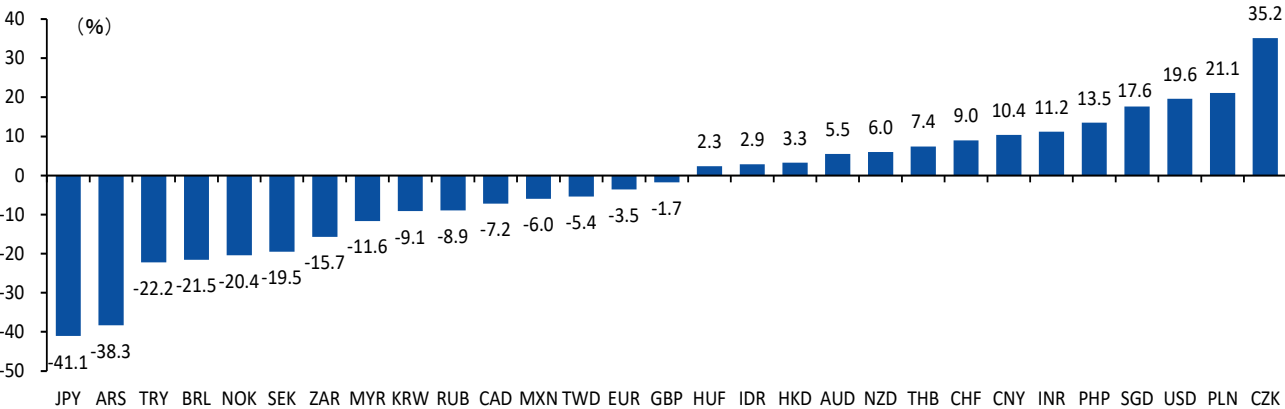
GBP/USD、AUD/USD、USD/CADを除く通貨は中期為替見通し、エマージングマーケットマンスリーに基づく見通しです。

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2023年末	2024年12月末	騰落率	株式市場	2023年末	2024年12月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	37689.54	42544.22	12.9%	-
日本	USD/JPY	141.04	157.2	11.5%	日経平均株価	33464.17	39894.54	19.2%	7.0%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1039	1.0354	-6.2%	ドイツDAX指数	16751.64	19909.14	18.8%	18.8%
英国	GBP/USD	1.2731	1.2516	-1.7%	ロンドンFTSE100指数	7733.24	8173.02	5.7%	7.5%
豪州	AUD/USD	0.6812	0.6188	-9.2%	S&P/ASX200指数	7590.818	8159.143	7.5%	18.3%
カナダ	USD/CAD	1.3243	1.4384	8.6%	S&PTロント総合指数	20958.44	24727.94	18.0%	8.6%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	7.1	7.2993	2.8%	上海総合	2974.935	3351.763	12.7%	9.6%
香港	USD/HKD	7.8115	7.7686	-0.5%	香港ハンセン	17047.39	20059.95	17.7%	18.3%
インド	USD/INR	83.2088	85.6125	2.9%	インドSENSEX30種	72240.26	78139.01	8.2%	5.1%
インドネシア	USD/IDR	15399	16132	4.8%	ジャカルタ総合	7272.797	7079.905	-2.7%	-7.1%
韓国	USD/KRW	1291.07	1478.6	14.5%	韓国総合株価	2655.28	2399.49	-9.6%	-21.1%
マレーシア	USD/MYR	4.594	4.4718	-2.7%	ブルサマレーシアKLCI	1454.66	1642.33	12.9%	16.0%
フィリピン	USD/PHP	55.385	57.979	4.7%	フィリピン総合	6450.04	6528.79	1.2%	-3.3%
シンガポール	USD/SGD	1.3203	1.3657	3.4%	シンガポールST	3240.27	3787.6	16.9%	13.0%
台湾	USD/TWD	30.579	32.792	7.2%	台湾加権	17930.81	23035.1	28.5%	19.8%
タイ	USD/THB	34.256	34.351	0.3%	タイSET	1415.85	1400.21	-1.1%	-1.4%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2024年11月時点)



■ 実質GDP成長率

	2023Q2	2023Q3	2023Q4	2024Q1	2024Q2	2024Q3	2024Q4	2023	2024
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.4	4.4	3.2	1.6	3.0	3.1		2.9	
日本*	2.1	-4.1	0.7	-2.2	2.2	1.2		1.5	
ユーロ圏	0.6	0.0	0.1	0.4	0.5	0.9		0.4	
英国	0.6	0.3	-0.3	0.3	0.7	0.9		0.4	0.9
豪州	2.0	2.1	1.5	1.1	1.0	0.8		2.1	
カナダ*	0.8	-0.6	0.7	2.0	2.2	1.0		1.5	
エマージングアジア									
中国	6.3	4.9	5.2	5.3	4.7	4.6		5.2	
香港	1.6	4.2	4.3	2.8	3.2	1.8		3.3	
インド	8.2	8.1	8.6	7.8	6.7	5.4		7.0	8.2
インドネシア	5.2	4.9	5.0	5.1	5.1	5.0		5.1	
韓国	1.0	1.4	2.1	3.3	2.3	1.5		1.4	1.5
マレーシア	2.8	3.1	2.9	4.2	5.9	5.3		3.7	
フィリピン	4.3	6.0	5.5	5.8	6.4	5.2		5.5	
シンガポール	0.5	1.0	2.2	3.0	3.0	5.4	4.3	1.1	3.9
台湾	1.5	1.6	4.7	6.6	4.9	4.2		1.1	
タイ	1.8	1.4	1.7	1.6	2.2	3.0		1.9	2.2

(注)インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	24/04	24/05	24/06	24/07	24/08	24/09	24/10	24/11	2023	2024
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.9	4.0	4.1	4.3	4.2	4.1	4.1	4.2	3.6	4.2
日本	2.6	2.6	2.5	2.7	2.5	2.4	2.5	2.5	2.6	2.5
ユーロ圏	6.4	6.4	6.4	6.4	6.3	6.3	6.3		6.6	6.4
英国	4.4	4.4	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3		4.1	4.2
豪州	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	3.9	3.7	4.0
カナダ	6.1	6.2	6.4	6.4	6.6	6.5	6.5	6.8	5.4	6.3
エマージングアジア										
中国										
香港	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	3.0
インドネシア					4.9				5.4	4.9
韓国	2.8	2.8	2.8	2.5	2.4	2.5	2.7	2.7	2.7	2.7
マレーシア	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2		3.4	3.3
フィリピン	4.0	4.1	3.1	4.7	4.0	3.7	3.9		4.4	3.9
シンガポール			2.0			1.9			1.9	2.0
台湾	3.4	3.4	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4
タイ			1.1			1.0			1.0	

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	24/04	24/05	24/06	24/07	24/08	24/09	24/10	24/11	24/12	2023	2024
	(前年比%)									(前年比%)	
先進国											
米国	3.4	3.3	3.0	2.9	2.5	2.4	2.6	2.7		4.1	3.0
日本	2.5	2.8	2.8	2.8	3.0	2.5	2.3	2.9		3.3	2.7
ユーロ圏	2.4	2.6	2.5	2.6	2.2	1.7	2.0	2.2		5.5	2.4
英国	2.3	2.0	2.0	2.2	2.2	1.7	2.3	2.6		7.3	2.6
豪州			3.8			2.8				5.6	3.4
カナダ	2.7	2.9	2.7	2.5	2.0	1.6	2.0	1.9		3.9	2.4
エマージングアジア											
中国	0.3	0.3	0.2	0.5	0.6	0.4	0.3	0.2		0.2	0.3
香港	1.1	1.2	1.5	2.5	2.5	2.2	1.4	1.4		2.1	
インド	4.8	4.8	5.1	3.6	3.7	5.5	6.2	5.5		5.7	
インドネシア	3.0	2.8	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.6	1.6	3.8	2.3
韓国	2.9	2.7	2.4	2.6	2.0	1.6	1.3	1.5	1.9	3.6	2.3
マレーシア	1.8	2.0	2.0	2.0	1.9	1.8	1.9	1.8		2.5	
フィリピン	3.8	3.9	3.7	4.4	3.3	1.9	2.3	2.5		6.0	3.2
シンガポール	2.7	3.1	2.4	2.4	2.2	2.0	1.4	1.6		4.8	1.6
台湾	1.9	2.2	2.4	2.5	2.4	1.8	1.7	2.1		2.5	
タイ	0.2	1.5	0.6	0.8	0.4	0.6	0.8	1.0		1.3	0.3

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2023Q1	2023Q2	2023Q3	2023Q4	2024Q1	2024Q2	2024Q3	2023	2024
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-3.5	-3.4	-3.3	-3.2	-3.2	-3.3	-3.6	-3.3	
日本	1.6	2.2	3.2	3.8	4.5	4.6	4.7	3.8	
ユーロ圏	0.1	0.5	1.3	1.7	2.1	2.5	2.9	1.7	
英国	-1.2	-1.3	-1.5	-2.2	-2.0	-2.0	-2.3	-2.2	
豪州	0.5	0.0	-0.1	-0.3	-0.8	-1.3	-1.6	-0.3	
カナダ	-0.6	-1.0	-1.0	-0.6	-0.5	-0.5	-0.3	-0.6	
エマージングアジア									
中国	2.4	2.3	1.8	1.4	1.2	1.2	1.6		
香港	9.0	9.0	8.7	8.6	10.3	12.0	12.1	8.6	
インド	-2.0	-1.7	-1.1	-0.9	-0.7	-0.8	-0.7	-0.9	
インドネシア	1.2	0.6	0.2	-0.2	-0.6	-0.6	-0.7	-0.2	
韓国	0.3	0.1	1.0	2.0	3.2	4.0	4.5	1.9	
マレーシア	3.5	3.7	3.1	1.6	1.8	1.5	1.2	1.6	
フィリピン	-4.4	-3.3	-2.4	-2.6	-2.0	-2.3	-3.0	-2.6	
シンガポール	18.2	18.2	18.5	19.8	20.3	20.2	19.8	19.8	19.9
台湾	12.1	12.1	12.9	14.0	15.1	14.8	14.3	14.0	
タイ	-2.4	-1.4	0.8	1.5	1.5	2.2	2.0	1.5	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	4.25-4.50	緩和: 2024/9/18	5.25-5.50	2024/12/18	-25bp	2024/12/18	-25bp
日本	当座預金残高の政策金利	0.25	引き締め: 2024/3/19	-0.10	2024/7/31	+15bp	2024/12/19	現状維持
ユーロ圏	預金ファシリティレート	3.00	緩和: 2024/6/6	4.00	2024/12/12	-25bp	2024/12/12	-25bp
英国	バンク・レート	4.75	緩和: 2024/8/1	5.25	2024/11/7	-25bp	2024/12/19	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	4.35	引き締め: 2022/5/3	0.10	2023/11/7	+25bp	2024/12/10	現状維持
カナダ	翌日物金利	3.25	緩和: 2024/6/5	5.00	2024/12/11	-50bp	2024/12/11	-50bp
エマージングアジア								
中国	1年物最優遇貸出金利(LPR)	3.10	緩和: 2012/6/8	6.31	2024/10/21	-25bp	2024/12/20	現状維持
インド	翌日物レポ金利	6.50	引き締め: 2022/5/4	4.00	2023/2/8	+25bp	2024/12/6	現状維持
インドネシア	BI金利	6.00	緩和: 2024/9/18	6.25	2024/9/18	-25bp	2024/12/18	現状維持
韓国	7日物レポ金利	3.00	緩和: 2024/10/11	3.50	2024/11/28	-25bp	2024/11/28	-25bp
マレーシア	翌日物金利	3.00	引き締め: 2022/5/11	1.75	2023/5/3	+25bp	2024/11/6	現状維持
フィリピン	翌日物金利	5.75	緩和: 2024/8/15	6.50	2024/12/19	-25bp	2024/12/19	-25bp
台湾	再割引金利(公定歩合)	2.000	引き締め: 2022/3/17	1.125	2024/3/21	+12.5bp	2024/12/19	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	2.25	緩和: 2024/10/16	2.50	2024/10/16	-25bp	2024/12/18	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	5.00	緩和: 2023/3/31	6.00	2023/5/23	-50bp	2023/5/23	-50bp

(注) インドネシア中銀は2023年12月21日に政策金利を7日物リバースレポレートからBI金利に変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行